

環境への負荷が少ない商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク

Shiga Green Purchasing Network

滋賀グリーン購入ネットワークニュース

第17号 2010年3月

News

GPN Green
Purchasing
Network



滋賀GPNは、2009年12月に設立10周年を迎えました。

10周年を機に展開した様々な事業を通して、一般消費者にもグリーン購入・「買うならエコ!」を広げ、また会員間の連携をさらに深めることができました。ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました! 今号は、10周年関連事業のレポートを中心にお届けします。

CONTENTS

■ 10周年記念事業レポート

- | | |
|-----------------------------|---|
| Report 1「10周年記念シンポジウム」 | 1 |
| Report 2「記念イベント」 | 4 |
| Report 3「メディア連携事業」 | 6 |
| Report 4「びわ湖一周『買うならエコ!』リレー」 | 7 |

■ リレートーク (株)オーケーエム

8

Report 1 10周年記念シンポジウム 子どもたちの未来のために 「買うならエコ!」でストップ地球温暖化!

開催日：2009年11月22日(日)

会場：ビバシティ彦根 ビバシティホール

参加者：251名

講演 「琵琶湖と共に歩む～滋賀の環境グラフティ～」 滋賀県知事 嘉田由紀子さん

知事就任前には、長年にわたり研究者として琵琶湖の環境問題に関わってこられた嘉田知事。研究者の目から見た琵琶湖と人とのかかわり、知事として描く滋賀県のビジョンについてご講演いただきました。

■ 遠くなってしまった水とのかかわり



琵琶湖が「近畿1400万人の貴重な水資源」であることは皆さんご存知ですが、滋賀の人々にとって琵琶湖の水とのかかわりは、かつてはもっと近いものだったと思います。3世代ほど前までは、自らつかんだ魚を食べていました。水を飲むとか魚を食べるということは自然に対する最大の信頼であり、かつては身の回りの自然を信頼していたのだと思います。

しかし今では、水道水を飲まない人も増えました。水とのかかわりが遠くなってしまうと、判断を専門家や行政に依存してしまい、受身になってしまいがちです。遠くなってしまったものに対して、信頼が回復できずにいるのではないかでしょうか。

自然というものは、人の利用する「モノ」としての価値、生命の存在そのものという「イノチ」としての価値、社会的あるいは文化的な「ココロ」としての価値などを総合的に持っています。分離された「モノ」「イノチ」「ココロ」としての価値観をもう一度統合し、「近い水」を取り戻す環境政策を行っていくなければと思っております。

■ 外発的発展から内発的発展へ

滋賀県では「持続可能な滋賀社会ビジョン」において、2030年の望ましい滋賀の姿を描き、実現に向けて達成すべき目標を掲げています。そのひとつが「温室効果ガスを1990年比で半減する」という目標です。

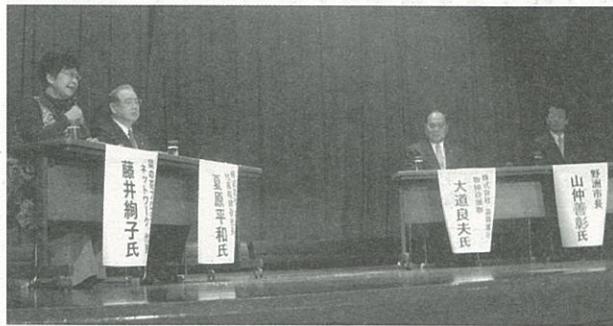
これに向け、県では様々な施策を進めておりますが、購入部門における取り組みの中のひとつが「グリーン購入」です。滋賀県は、1994年に全国に先駆け、全ての県機関でグリーン購入の取り組みを始めました。2006年にはグリーン入札制度をスタートさせ、環境負荷低減に取り組む事業者を広げる仕組みづくりを進めています。

目標の実現に向けては、ないものねだりではなく、あるものを探し、それを活かすことが必要です。私は滋賀県が持つ「人の力」「自然の力」「地と知の力」を活かすという戦略を展開したいと思っています。滋賀には豊かな自然があり、その自然の仕組みを確実に活かせる生活者の潜在能力があるということは、私が研究者時代から教えられてきました。

環境問題は、ともすれば後ろ向きなテーマに捉えられることが多いですが、私はむしろ次の成長への大きなきっかけだと考えています。成長への素材も、滋賀にはたくさんあります。琵琶湖とのかかわりを見つめ直すことから、地域の内発的発展を目指したいと思っています。



パネルディスカッション 「子どもたちの未来のために『買うならエコ!』でストップ地球温暖化!」



●パネリスト

(株)平和堂 代表取締役社長 夏原 平和さん
(株)滋賀銀行 取締役頭取 大道 良夫さん
野洲市長 山仲 善彰さん

●コーディネーター

菜の花プロジェクトネットワーク
代表 藤井 純子さん

パネリストのお三方は、皆さん滋賀県生まれ・滋賀県育ち。子どもの頃から魚を釣ったり泳いだり、琵琶湖を身近に感じ、愛してこられた方々です。「美しい琵琶湖を守りたい」という思いを、それぞれの立場で形にされている皆さんに「買うならエコ!」について語り合っていただきました。パネリストのお話の要旨をご紹介します。

■夏原さん

滋賀GPNが設立された10年前と比べ、作る側、売る側、買う側の意識が大きく変化したことを実感しています。10年前には社内でワーキングチームを作り、社員が試行錯誤しながらエコ商品をピックアップし、「エコナビ」コーナーを数店舗に設けていました。今では各メーカーが社運を賭けてエコ商品を開発し、お客様にも全店舗でエコ商品を見つけてもらいやすくなりました。

買い物袋持参運動も、お蔭様でかなり浸透してきました。滋賀県は全国的に見ても持参率が高く、環境意識の高さを感じています。

また、お歳暮など贈答品の包装についても、10年前とはお客様の意識が大きく変わり、簡易包装へのご理解がいただけるようになりました。

りました。

平和堂は消費者の皆さんが身近にいらっしゃるので、これからも環境によい商品をそろえて、分かるようにPRしていきたいですし、お客様からもご提案をいただきたいと思っています。

■大道さん

10年前には、環境対応は企業の義務・負担であるという考え方主流だったように思います。今日では、環境を無視したビジネスは社会に受け入れられず、成り立たません。そういう意味では、環境ビジネスこそチャンスであり、特に中小企業にとっては“オンリーワン”になる可能性に満ちた場であると考えています。

「2030年 温室効果ガス50%削減」の滋賀ビジョンについては様々な意見があると思いますが、当行は必ず実現できると信じて、取り組みを積み重ねています。

CO₂排出量は、産業部門では徐々に削減できていますが、家庭部門で増えているために全体量では削減できていないのが現状です。まさに「買うならエコ」、グリーン購入を家庭部門でもより広げていくことで、もっと前進する余地があ

10周年記念 共同製作

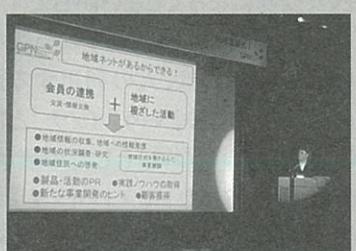
滋賀県産間伐材の小枝に想いを込めて、シンポジウム参加者にひとつずつ貼り付けていただきました。



「私たちの想いで琵琶湖を満たしましよう!」会場に呼びかける滋賀県地域女性団体連合会の橋本さん

「びわこ発グリーン購入ものがたり ～滋賀GPN10年のあゆみ～」

会員を代表して3人のスピーカーが、10年間のあゆみや、過去・現在の具体的な活動紹介、今後の展望などについて語りました。初めて滋賀GPNを知る人には詳しいプロフィールとして新鮮に、過去の活動に関わってきた人達には感慨深く心に刻まれたことだと思います。



るのではないかでしょうか。

滋賀銀行といたしましては、「お金の流れで地球環境を守る」をテーマに、これからも経営に環境を取り込んだ「環境経営」を一層充実させていきたいと思っています。

■山仲さん

温暖化対策は、人の我慢や努力に頼るだけでは限界があります。できるだけ快適性を落とさず、制度や技術によって社会的な仕組みから変えていかなければなりません。野洲市ではニューディール基金を使って太陽光発電を断熱対策とあわせてエコハウス対策として補助をしていますが、将来はもっとメニューを増やしていくたいと思っていますし、市民が無理なくごみを削減できるような仕組み作りも進めたいと思っています。



野洲市には市民が主体的、恒常に取り組んでいる環境保全活動が多数あり、特にレジ袋削減の活動は、本当に熱心に取り組んでくださっています。「買うならエコ」のためには、売る側にも「売るならエコ」を是非やっていただきたいとも思っています。

滋賀GPNには設立当初から様々なドラマにお付き合いしてきました。関わってきた多くの人のつながりがあってここまで来たことを、皆さんぜひもう一度振り返ってみてください。野洲市でも、今までの実績を活かしながら、より大胆な取り組みをしていきたいと思っています。

■藤井さん

滋賀県民の多くが、皆さんと同じ思い入れを抱いて「子どもたちの未来を守りたい」と願っていると思います。それを「買うならエコ!」の大きなうねりにつなげていくための仕組みづくりが必要で、それこそがこれから10年のテーマなのではないでしょうか。



はじまり宣言



一緒にはじめましょう。みんなで取り組めば、大きな成果ができるはずです。私たちの未来を、「持続可能な未来」にするために—

シンポジウムを締めくくったのは、「はじまり宣言」。

会員を代表して、滋賀県立大学グリーンコンシューマーサーカルの学生が、熱い想いを宣言しました。「今から、この会場から、

プログラム

14:00 開会宣言

会員代表 立命館大学Reco.Lab
金本 紗季さん 水野 唯さん 東 遼太さん

14:05 祝 辞 彦根市長 獅山 向洋さん

14:10 祝 辞 GPN会長 中原 秀樹さん

14:15 講演「琵琶湖と共に歩む～滋賀の環境グラフティ～」 滋賀県知事 嘉田 由紀子さん

14:45 「びわこ発グリーン購入ものがたり ～滋賀GPN10年のあゆみ～」

関西電力(株)滋賀支店 辻野 功二さん
草津市 藤田 雅也さん
(株)平和堂 西塙 哲夫さん

15:00 —休憩—

15:10 ウェーブをつくろう!! 滋賀GPN代表幹事 土屋 正春

15:20 パネルディスカッション 「子どもたちの未来のために『買うならエコ!』で ストップ地球温暖化!」

16:50 はじまり宣言

会員代表 滋賀県立大学グリーンコンシューマーサーカル
三田 恵理子さん 阪井 紗代さん 印南 敦貴さん

17:00 閉会

10周年記念事業を盛り上げた、
滋賀GPNマスコットキャラクター
「エコペん」ファミリーです。

これからも
ヨロシクね♪

シンポジウム参加者の声(アンケートより)

●「買うならエコ」「売るならエコ」が、ストップ地球温暖化という大きなテーマにつながっていると思うと、日々のエコ活動に力が入ります。コツコツと実行に努めたいです。

●滋賀のトップの企業が熱心に取り組まれていることにエールを贈りたい。滋賀から大きなうねりを作りたいですね。

●「びわ湖発グリーン購入ものがたり」で10年間のあゆみを改めて聞き、活動の歴史や趣旨への理解を深めることができました。

●市民も学生も社長もつながっている滋賀GPNって素敵ですね。

シンポジウム会場に「いちおしグリーン商品」が集合!

～出展会員からのメッセージ～

シンポジウム会場内に、会員団体の「いちおしグリーン商品」を展示しました。中には会場で購入できるものもあり、来場者で賑わいました。

※商品情報の詳細は、「滋賀GPN会員発・いちおしグリーン商品リスト」(冊子)をご覧いただけます。滋賀GPNホームページ(<http://www.shigagpn.gr.jp/>)からダウンロードすることもできます。



■NPO法人碧いびわ湖

滋賀GPN設立10周年の今年、20周年を迎えた滋賀県環境生活協同組合の事業をNPO法人「碧いびわ湖」が引き継ぎました。「買いたい物を変える」運動から「住まいを変える」運動にも踏み出して、地域に根差した安心で健やかな暮らしを広めます。



村上 悟さん

■ウッドワーク滋賀 堤木工所

仮壇製造から滋賀県産間伐材による木製品作りへ乗り出した弊店も、来年で10年を迎えます。今回の式典では県産間伐材による「机」を展示させていただきました。価格・機能等、まだまだ改良を目指します。滋賀GPNとともに繁栄を目指して頑張ります!



堤 恒之さん

■(財)淡海環境保全財団

「滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例」が施行され18年近くになります。特に近年は行政だけでなく、市民や企業など民間からのヨシ保全活動への参加が際立ち、まるで21世紀の新しい社会の形が垣間見えるようです。



田中由美子さん

■(株)関西アーバン銀行(旧:(株)びわこ銀行)

10周年おめでとうございます。今回のシンポジウムでは「いちおしグリーン商品」ということで「カードローン・オフセット定期預金」等を紹介させていただきました。3月以降、新銀行としての活動にもご期待ください。



谷村 雅彦さん

■(株)コクヨ工業滋賀

大切なヨシ原を守り育てて行くには、「刈る」「作る」「使う」のサイクルを循環させることが重要です。いちおしエコ商品の「ヨシから出来たエコ文具「ReEDEN(リエデン)」」を広く地域に普及させて行くことが当社の環境活動です。



太田 俊浩さん

■(株)滋賀銀行

「お金の流れで地球環境を守る」を合言葉に展開している、「エコプラス定期による学校ビオトープの提供」「太陽光発電システムの導入促進による、ニゴロブナの放流」の取り組みをパネルで紹介しました。



西堀 武さん

■滋賀県産間伐材有効利用促進グループ

各事業者が生業を活かして、滋賀県産間伐材を使った身近な製品づくりを行っています。2007年の活動開始から商品数も毎年増えています。私たちの製品を通して、琵琶湖や森林保全、地球温暖化について考える機会をお持ちいただければ幸いです。



中田 亘さん

■滋賀県地域女性団体連合会

滋賀県地域女性団体と石けん関連業種16社が合同で研究開発している「エコクリーン」台所用・洗濯用の製品を紹介させていただきました。琵琶湖に直結している水用品の重要性を改めたいと思っていました。



上阪よう子さん

■滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル

私たちが、大学生協・文具メーカーと共同開発した、「パンチつきWとじファイル」を展示させていただきました。このファイルは、滋賀GPNがあればこそのです。これからも学生視点で頑張っていきます!



三田恵理子さん

■上西産業(株)

リサイクルプランターは滋賀県立大学工学部、滋賀県東北部工業技術センターと共同開発した、地球上にやさしいエコマーク認定商品です。エコセレクト商品として「エコで丈夫」なプランターを滋賀県から全国に広めています。



梶 正嗣さん

■新江州(株)

MOH(もう)通信のキャラクター、牛君からメッセージです。「いつもありがとう。こんなにエコ商品が誕生するなんて、夢のようだ。MOU♪。エコな街MOHタウンをめざして牛歩だもう!」



辻村 琴美さん

■田中建材(株)

グリーン購入の考え方方が社会にもっと浸透し、環境への関心が高まつたらと思いました。当社の環境技術の木質舗装の販売も全国に向けて頑張っています。2月に環境力大賞を受賞させて頂きました。



田中 菊江さん

■日本ソフト開発(株)

当社は、「わが家のCO₂排出量の見える化」としてエコケータイをご案内させて頂き、皆様に興味深く見て頂く事ができました。今後もITを通じ、STO P温暖化に向けた取り組みを目指していきます。



山田 保幸さん

■(株)パールライス滋賀

シンポジウムでは、学生さんなど若い方が熱心に取り組んでおられ、たいへん感心しました。私たちも「無洗米」を中心に、環境に配慮した商品づくりとPRに努めています。



荒木 清孝さん

■(株)平和堂

生ごみを堆肥化し、その堆肥で育てた循環工野菜や製造時のCO₂をオフセットしたカーボンオフセット商品、エコバスケットなど、環境配慮する視点が広がっている点を紹介させていただきました。



西塚 哲夫さん

■(有)ワイエス商事

以前より琵琶湖に生息するヨシの有効活用を模索しておりましたが、最近ようやく長期間利用可能な箸の製品化に成功しました。今後もネットワークの皆様と共にエコ(恵湖)活動に積極的に協力していきたいと考えています。



尾崎仁一郎さん

Report 2 ビバシティ彦根でイベント開催

シンポジウムのほかにも、ビバシティ彦根では3日間にわたってイベントを開催しました。(2009年11月21日～23日)

★「買うならエコ！」クイズラリー

今日のお買い物から実践できる「買うならエコ！」をパネルで紹介。親子連れを中心とする買い物客で賑わいました。クイズラリーの参加者は、3日間で1000人以上に!

アンケートより

- ・ふらっと買い物に来ただけなのに、親子でよい勉強ができました。クイズを通して楽しく学べてよかったです。
- ・バラ売り商品は全体的に少ないし、高い。普通に選んでもエコ商品が買えるようになってほしいです。

★お店たんけん エコさがしラリー

展示パネルで「買うならエコ！」が分かったら、売り場へGO!平和堂店舗にて協力いただき、お店の売り場からエコ商品を探すラリーを小学生対象で実施しました。(3日間で79名が参加)

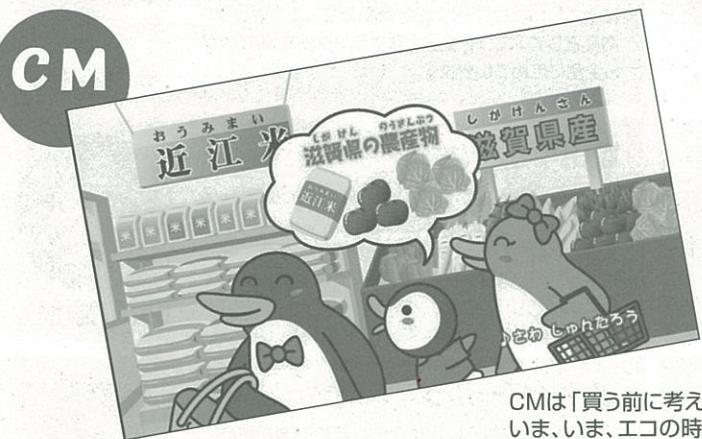
★ひこにゃんといっしょ「買うならエコ！」クイズ・ショー(11月22日のみ)

まずは「エコペん」ファミリーが登場する人形劇で「買うならエコ！」を紹介。そして、人気者ひこにゃんが滋賀GPNのためにエコクイズを持って登場。会場は大歓声の渦に!

Report 3 テレビでも 新聞でも 「買うならエコ!」

10周年記念事業として県内各地で実施した一連のイベントが、環境省『地球温暖化防止に係る国民運動におけるNPO・NGO等の民間団体とメディアとの連携支援事業』に採択され、テレビや新聞等のメディアを使ったグリーン購入の啓発活動を環境省事業として実施、10周年に花を添えることができました。

(株)びわ湖放送さんとの連携によりCMやコーナー番組で、視聴者にグリーン購入の実践を呼びかけました。CMやコーナー番組でBGMとして流れた曲『エコの人生 地球を守るために』は、長浜小学校5年生の澤俊太郎くんが作詞・作曲されたことが話題となりました。



CMは「買う前に考え方編」「買うときに考え方編」の2種類。♪エコ、エコ、ぼくらはいま、いま、エコの時代を…～澤くんが歌う軽快なリズムのBGMに合わせて動くエコペンファミリーの愛らしいアニメーションが好評でした。

「買うならエコ!とおきエコ情報」

びわ湖放送で平日夕方放送される『キラリン滋賀545』の番組内で毎週水曜日、滋賀GPNがとおきのエコ情報を届けました。(放送:2009年10月~11月)

また、びわ湖放送で月に一度放送される特別番組『持続可能な滋賀社会2009』では、知事をはじめ「10周年記念シンポジウム」の出演予定者がグリーン購入の意義を語るという特集を組んでいただきました。

(放送:2009年10月31日、再放送:2009年11月1日)

「買うならエコ!とおきエコ情報」のテーマ

- | | |
|-----|------------------|
| 第1回 | 「グリーン購入ってなあに?」編 |
| 第2回 | 「『食』を考える」編 |
| 第3回 | 「サービスもエコ!」編 |
| 第4回 | 「エコ交通を考える」編 |
| 第5回 | 「滋賀の森、びわ湖のヨシ活用」編 |
| 第6回 | 「『住環境』を考える」編 |
| 第7回 | 「暮らしの中の豊かさ」編 |



スタジオ撮影風景



「碧いびわ湖」取材風景



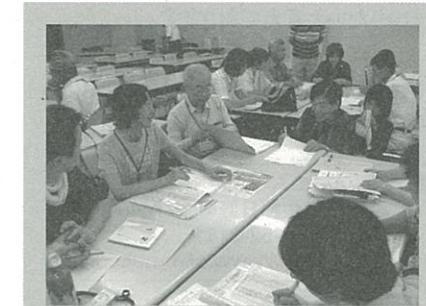
「へーベルハウス展示場」取材風景

また、京都新聞、読賣新聞、中日新聞とも連携し、滋賀GPN10周年記念事業の告知を兼ねたグリーン購入啓発広告を各紙面に数回掲載しました。テレビだけでなく紙媒体からも告知することで、幅広い層の方々に活動をお知らせすることができました。

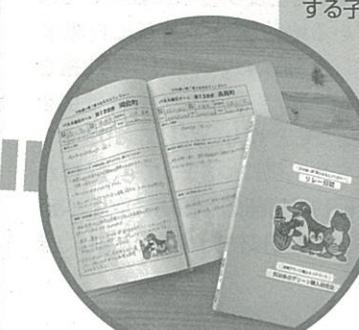
Report 4 「びわ湖一周『買うならエコ!』リレー」 6か月でびわ湖を一周!



リレーは栗東市からスタート。



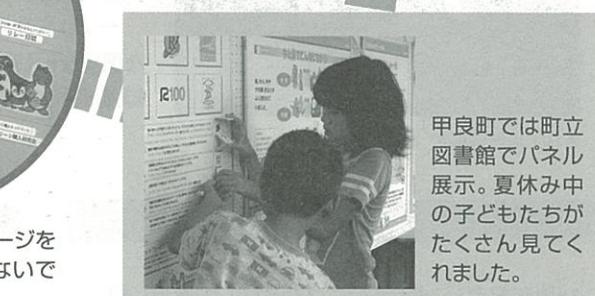
東近江市では、市民対象の「環境セミナー」を開講。ワークショップを交えて受講生のコミュニケーションを図りながら、グリーン購入を紹介しました。



「リレー日誌」にメッセージを記し、次の走者へとつないでいきました。



高島市役所 庁舎ロビーに、グリーン購入関係課(環境政策課・会計課・行政課)のメンバーが集結。ナイスチームワーク!



甲良町では町立図書館でパネル展示、夏休み中の子どもたちがたくさん見てくださいました。

リレー日誌より、担当者の声

- 市民課の窓口近くに展示したので、証明書等の発行を待っている方に多く見ていただけました。
- 展示を見てくれた子どもたちの、柔軟な発想に感激しました。
- リレー方式のお陰で、他市町の担当者との横のつながりを持てたことが良かったです。
- このリレーをきっかけに、今後も自治体間の連携を深めていきたいと思います。

新規入会会員 (2009年1月1日～2010年2月1日)

(株)フジサワ建設、(有)クリエイト・マエダ、(有)畠中金物店、(株)地球の芽、(株)西堀、(有)ワイエス商事、(株)ヤマダ、滋賀県生活協同組合連合会、兼松総合印刷(株)、滋賀高速印刷(株)、(株)山名印刷、(株)エル・エヒロフードサービス、中井印刷、(有)他谷無線商会、三田村印刷(株)、松田自動車用品店、(株)シミズ事務機、(有)柳印刷店、(株)清友商会、日本ナーダムオイル販売(株)、(有)田中印刷所、(株)中村益造商店、(株)杉山電設、(株)大翔、(有)スミダヤ、(株)湖陸電機、京セラ(株)滋賀蒲生工場、京セラ(株)滋賀八日市工場、(株)奥山ポンプ商会、中川テント(株)、角川電機(株)、(株)井田自動車

アティア八日市店、(株)萩原建設、オフィストータル(株)、ニック産業(株)、(株)吉田土建、寺村書店、大西電子(株)、高畠産業(株)、NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク(株)、(株)富士印刷、近畿環境保全(株)、大日本スクリーン製造(株)彦根地区事業所、丸松建設(株)、三大宝建設(株)、滋賀建機(株)、(株)サンセイ、旭化成ホームズ(株)滋賀支店、(株)栄建設、オーウエル(株)、富士印刷(株)、佐々木印刷(有)、(有)かじ徳、大和リース(株)滋賀支店、(株)オーディオショップイセ(入会順)

現会員数:455 (2010年2月1日現在)
(企業401、行政22、非営利団体32)

リレートーク Relay Talk 「だから今、グリーン購入」

さらに一步 流体制御で地球にやさしい環境づくりに挑戦します。

「株式会社オーケーエム」は、企業設立以来100年余、作業工具の製造から出発し、昭和27年より60年近く、バルブメーカーとして常に業界の先端を行く製品開発に取り組み、設計から製造まで一貫した生産システムのもと高機能、高品質、高信頼性のあるバルブを提供してまいりました。

また、時代に先駆けたバルブに取り組みながら、地球にやさしい環境づくりに貢



本社工場空撮写真

献できる企業でありたいと考えてまいりました。具体的には、高効率天然ガス火力発電、高効率石炭火力発電、二酸化炭素回収・貯留、高効率製鉄プロセス、バイオマス製造及び燃焼、ビル空調設備の省エネ化、高度水処理など、わが社のバルブ製品を広く社会に供給させていただくことにより、液体、気体、粉体を流す製造、燃焼プロセスなどにおいて直接・間接的に省エネ、省資源、二酸化炭素の発生低減に寄与し、現在及び将来に継続して求められている地球環境の改善に貢献するとともに、今後においてもさらに技術を進歩させ環境分野においても貢献度を高めていきたいと努力いたしております。

一方、本社工場につきましても、緑豊かな環境を標榜し積極的な植樹に取り組み、緑地面積の増加に注力するとともに、空

株式会社オーケーエム
代表取締役社長 村井 米男さん

調設備の省エネ化を図り、夏季にはクールビズ、冬季は環境省の指標に基づく室内温度調整に取り組み、社員の意識も省エネ、省資源、二酸化炭素の発生低減へと向かられるようになってまいりました。今後につきましても、更なる取り組み強化を図ってまいりたいと考えております。



次回は、しがぎんリース・キャピタル(株)さんにお願いします。

(株)オーケーエム
滋賀県蒲生郡日野町大谷446-1
TEL : 0748-52-2131
URL : <http://www.okm-net.co.jp>

編集後記

10周年記念シンポジウムに、スタッフとして参加しました。「私たちに何ができるか、どう動くべきか。今日このシンポジウムで、皆さんと共に考えたいと思います。」緊張の中にも温かさを感じる立命館大学Reco.Labの開会宣言。嘉田知事の講演では「一人の百歩より百人の一歩」の行動が重要であることを再認識し、パネルディスカッションにおいては「このままじゃいけない」「何とかしなきゃ」という危機感を参加者が共有できたと思います。

環境問題は地球温暖化だけではなく、土壤汚染や廃棄物処理など他にも様々な課題があり、これらは資源やエネルギー問題とも密接に係わっています。将来にわたって社会を持続させるには、「環境」「資源」「エネルギー」を一体のものとして捉えていかねばなりません。環境省の「チャレンジ25」ホームページ(<http://www.challenge25.go.jp/index.html>)にある「地球温暖化防止 啓発ムービー」を活用することなども、家庭や職場での意識づけに有効だと考えます。今回のシンポジウムを機会に、もう一度ライフスタイルを見直し、一人ひとりが地球温暖化防止について考え、意識して行動すべきだと強く感じました。ありがとうございます。

(ニュースレター担当幹事:小林事務機(株) 和田)

「おじいちゃん、もったいないよ」「ごめんごめん、つい忘れちゃうんだよ」

「もったいないレベル7だからね、簡単に捨てちゃダメだよ」
最近は孫に教えられる日々だ。

持続可能な社会を目指すために炭素税が導入されたのは8年前、4年前には世界で初めて「もったいない推進法」が施行され、CO₂削減はもちろんのこと、今や資源の浪費を最低限に抑えた循環型社会の構築がかなり進んでいる。2010年生まれの孫は環境世代といえるだろう。

昨年はグリーン社会運営機構の20周年だった。ああ、確か最初はグリーン購入ネットワークといったはずだ。最初の10年はどちらかというと、グリーン購入の啓発関連の事業が多かったように思う。それが10年過ぎてからは、社会の運営システムの一つとして位置づけられるようになり、「もったいない推進法」の制定と同時に格上げされたんだっけ。

あの推進法成立へ向けての滋賀県の取り組みは、世界でも先駆的だった。本当にみんな熱が入っていたよなあ。いやいやこれからだ。もう少しがんばってみるか。

(ニュースレター担当幹事:(株)沢田商店 沢田)

編集・発行／滋賀グリーン購入ネットワーク

〒520-0807

滋賀県大津市松本一丁目2番1号 大津合同庁舎6階

TEL:077-510-3585 FAX:077-510-3586

E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:<http://www.shigagpn.gr.jp/>

このニュースレターは、GPN-GL14「オフセット印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。

